

専門分野 I

分野	専門分野 I		教育内容		基礎看護学		単位	11	時間	300		
科目	基礎看護学概論(看護の理解)		単位	1	時間	30	進度	1年次前期				
目的	看護の変遷や看護の理念をふまえて、看護の基本概念を考えることにより現代看護における看護の機能と役割を学ぶ。また健康の概念を理解し、看護とは何かについて考える姿勢を養い、自己の看護観を養う											
方法	講義			評価方法	筆記試験・レポート			講師 本校専任教員(27年) (総合病院で11年の 実務経験有)				
学習目標		授業内容										
看護の概念や看護の対象を理解する		1.看護とは 1)看護の本質 2)看護の役割と機能 3)看護の継続性と情報共有 2.看護の対象の理解 人間とは										
健康の概念を理解し、生活や環境が健康にどのように影響しているのか学ぶ		3.健康のとらえ方と国民の健康状態 1)健康とは 2)社会の変遷と健康観の変化 3)人々の生活と健康に関する統計 4)看護職者として健康指標を把握する										
看護の変遷を学び、看護の概念を理解する		4.看護の提供者 1)職業としての看護 2)看護職の養成制度と就業状況 3)看護職者の教育とキャリア開発										
職業倫理としての看護と倫理を理解する		5.看護における倫理 1)現代社会と倫理 2)医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 3)看護実践における倫理問題への取り組み 4)現代社会と倫理										
看護における教育と指導の目的と意義を理解する		6.教育・指導 1)看護における教育・指導とは 2)健康に生きることを支える教育・指導 3)健康状態の変化に伴う教育・指導 4)看護のなかに含まれる教育・指導										
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[1] 看護学概論. 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I. 医学書院 参考書:国民衛生の動向 超入門事例でまなぶ看護理論. Gakkenn 看護覚え書き,現代看護の探求者たち日本看護協会出版会,看護の基本となるもの												

専門分野 I

分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学	単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論Ⅰ	単位	1	時間	30	進度	1年次前期
単元名	看護の基本となる技術(技術概論 安全・安楽 コミュニケーション技術)						
目的	看護における技術の考え方とすべての看護技術に共通する基本技術を学ぶ。対象に安全、安楽な技術を提供するために、対象の理解と看護実践に必要な基本技術を学ぶ						
技術概論(6時間)							
方法	講義・演習		評価方法	筆記試験		講師	
学習目標		授業内容					本校専任教員(10年) (病院で16年の実務経験有)
看護における技術の考え方を理解する		1. 看護技術を学ぶにあたって 1)技術とはなにか 2)看護技術の特徴 3)看護技術の基本原理 日常的手洗い テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ. 医学書院					
安全・安楽(14時間)							
方法	講義・演習		評価方法	筆記試験		講師	
学習目標		授業内容					本校専任教員(3年) (病院で5年の実務経験有)
安全な援助技術の必要性を理解する		1.看護における安全・安楽 1)安全・安楽の意義 2)安全対策の基本 2. 事故防止のための対策 1)誤薬防止 2)チューブ類の予定外抜去防止 3)誤認防止 4)転倒転落防止 5)薬剤・放射線暴露防止 3. 安全・安楽で効果的な動きのための技術 1)ボディメカニクス 2)重心と安定性 3)作業姿勢と作業域 4)力の効率 5)よい姿勢 6)安楽な体位の保持 テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ. 医学書院					
コミュニケーション技術(10時間)							
方法	講義・演習		評価方法	筆記試験		講師	
学習目標		授業内容					本校専任教員(3年) (総合病院で22年の実務経験有)
コミュニケーションの意義を学び、効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度と看護における相互作用を理解する		1. コミュニケーションとは 1)コミュニケーションの意義 2)コミュニケーションの基本技術 2. 患者を支えるためのコミュニケーション技術 1)プロセスレコード 2)ロールプレイング 3)カンファレンス 3. コミュニケーション演習 テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ. 医学書院 看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング					
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ. 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ. 医学書院 参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術. 医学書院 看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング							

専門分野 I

分野	専門分野Ⅰ		教育内容		基礎看護学		単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論Ⅱ		単位	1	時間	30	進度	1年次前期		
単元名	看護の基本となる技術(スクリーニングの技術 バイタルサイン)									
目的	すべての看護技術に共通する基本技術を学ぶ. 安全、安楽な技術を提供するために対象の概要の理解と看護実践に必要な基本技術を学ぶ									
スクリーニングの技術(14時間)										
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験		講師		
学習目標		授業内容								
対象の全体像を把握するための情報収集の基礎を理解する		1. 対象の健康状態を捉える手段 1)意義・目的 2)状態を捉える手段 3)対象の状態を捉える際の留意点 4)全身状態・全体印象の把握 5)健康歴の聴取							本校専任教員(2年) (総合病院で6年の実務経験有)	
		2. 身体の計測 1)計測の目的 2)計測を行う際の留意事項 3)計測の実際 (1)身長 (2)体重 (3)腹囲 (4)視力・視野								
身体各部の形態や、身体機能を正しく計測し評価することを習得する										
バイタルサイン(16時間)										
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験		講師		
学習目標		授業内容								
生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について習得する		1. バイタルサインの観察とアセスメント 1)バイタルサインを観察する目的 2)体温 (1)体温維持に関する基礎知識 (2)体温測定の実際 (3)アセスメント 3)脈拍 (1)脈拍に関する基礎知識 (2)脈拍測定の実際 (3)アセスメント 4)呼吸 (1)呼吸に関する基礎知識 (2)呼吸の観察方法 (3)アセスメント 5)血圧 (1)血圧に関する基礎知識 (2)血圧の測定方法 (3)アセスメント 6)意識に関する基礎知識と観察の方法 (1)意識に関する基礎知識 (2)意識の観察の実際 (3)アセスメント 2. 測定の実際 1)測定機器の取り扱い 2)測定結果とアセスメントの記録方法							本校専任教員(2年) (総合病院で6年の実務経験有)	
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ. 医学書院 参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術. 医学書院										

専門分野 I

分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学	単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論Ⅲ	単位	1	時間	30	進度	1年次前期・後期
単元名	看護の基本となる技術(看護研究Ⅰ)						
目的	科学的思考のプロセスの学習をもとに、系統的看護を展開する方法を学ぶ						
前期(14時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
看護過程の意義とプロセスを理解する	1.看護過程とは 1)看護過程の意義 2)問題解決過程とはなにか 3)看護過程と問題解決法 4)看護過程とクリティカルシンキング 2.アセスメント 1)情報収集 2)データの分類・整理・分析 3.看護上の問題(診断) 1)特定された看護上の問題 2)看護診断 3)問題の優先順位 4.看護計画 1)目標の設定 2)計画の立案 5.実施 実施の流れ 6.評価 1)評価の方法 2)評価結果・修正 7.看護記録 1)看護記録とは 2)記載・管理 3)構成						本校専任教員(10年) (病院で16年の実務経験有)
後期(16時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート	講師			
学習目標	授業内容						
看護研究の基礎的知識を理解する	1.看護研究とは 1)看護研究の目的 2)看護研究の意義 2.看護研究の方法 1)研究テーマの絞り方 2)文献検索と検討 3)文献カードの作成 4)研究計画書作成 5)論文の書き方 6)研究論文の評価						保健師 (総合病院で6年の看護師実務経験有)
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ. 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究. 医学書院 参考書: ひとりで学べる看護研究. 照林社							

専門分野 I

分野	専門分野Ⅰ		教育内容		基礎看護学		単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論Ⅳ		単位	1	時間	30	進度	2年次後期		
単元名	看護の基本となる技術(看護研究Ⅱ)									
目的	科学的思考・問題解決的思考をもとに、看護を多角的視点から深く考察し質の高い看護を追究する能力を養う									
前期(16時間)										
方法	講義・演習		評価方法		筆記試験			講師		
学習目標		授業内容								
健康障害を持つ対象の状態に応じた看護過程の展開方法を理解する		1. 事例を用いて看護の展開を行う 1)アセスメント 情報から得たデータの分類・整理・分析 2)看護上の問題(診断)の抽出 3)看護計画の立案 (1)目標の設定 (2)計画の立案 4)記録の書き方 (1)計画の修正 (2)看護要約							本校専任教員(10年) (病院で16年の実務経験有)	
後期(14時間)										
方法	講義・演習		評価方法		発表・レポート			講師		
学習目標		授業内容								
研究の過程を体験することにより研究的態度を習得する		1.看護研究演習 1)ケーススタディーとは 2)ケース・スターディの目的 3)看護研究におけるケース・スタディの位置づけ 4)倫理的配慮 5)ケース・スタディの構成とその内容 6)研究計画書作成 7)研究の発表と評価							本校専任教員(10年) (病院で16年の実務経験有)	
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ. 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究. 医学書院 参考書:ひとりで学べる看護研究. 照林社										

専門分野 I

分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学	単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論Ⅴ	単位	1	時間	30	進度	1年次前期・後期
単元名	生活を支える技術(生活環境 食べる 排泄)						
目的	基本的欲求を満たす基本的日常生活援助技術を学ぶ。対象に安全、安楽な技術を提供するために、対象の理解と看護実践に必要な基本技術を学ぶ						
生活環境(10時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
対象の基本的欲求を理解し、日常生活援助の基礎知識、技術、態度を習得する	1.療養生活の環境 2.病室の環境のアセスメントと調整 1)病室・病床の選択 2)温度・湿度 3)光と音 3.病床環境のアセスメントと整備 1)病床を整える 2)病床を保つ 3)ベッド周囲の環境整備 4)色彩 5)空気の清浄性などにおいて 6)人的環境						本校専任教員(1年) (総合病院で23年の実務経験有)
食べる(10時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
対象の基本的欲求を理解し、食事援助の基礎知識、技術、態度を習得する	1.食事の基礎知識 1)人間にとって食べることの意味 2)看護技術としての食事援助の位置付け 2.栄養・食行動に関するアセスメント 1)栄養状態 2)水分・電解質のバランス 3)摂食能力 3.食事援助 1)療養における食事内容の調整 2)食事介助・食事セッティング 3)食後のケア(口腔ケア含む) 4)非経口的栄養摂取(経管栄養) 4)嚥下機能 5)食欲および摂食行動 6)食生活変更の必要性、対象者の認識・行動						本校専任教員(3年) (病院で5年の実務経験有)
排泄(10時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
対象の基本的欲求を理解し、排泄援助の基礎知識、技術、態度を習得する	1.排泄援助の基礎知識 1)排泄の意義 2)看護師が行う排泄の援助 3)排泄に関するアセスメント 2.排泄援助の基本的姿勢 1)環境を整える 2)自然排泄を促す援助 3)清潔に留意する 3.排泄用具を用いた排泄行動に応じた援助 1)尿器・便器の使用 2)おむつ交換 3)陰部洗浄 4.排尿障害時の援助 1)導尿 2)膀胱留置カテーテル 5.排便障害時の援助 1)腹部マッサージ 2)浣腸 3)摘便						本校専任教員(17年) (病院で6年、診療所で4年の実務経験有)
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院 参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院 成人看護学 成人看護技術, 南江堂							

専門分野 I

分野	専門分野Ⅰ		教育内容		基礎看護学		単位	11	時間	300	
科目	基礎看護学方法論Ⅵ		単位	1	時間	30	進度	1年次前期・後期			
単元名	生活を支える技術(身体の清潔を保つ 姿勢を保つ・活動を整える)										
目的	基本的欲求を満たす基本的日常生活援助技術を学ぶ。対象に安全、安楽な技術を提供するために、対象の理解と看護実践に必要な基本技術を学ぶ										
清潔(15時間)											
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験			講師		
学習目標		授業内容									
対象の基本的欲求を理解し、清潔援助の基礎知識、技術、態度を習得する		1.清潔援助の基礎知識 1)清潔保持の意義・目的 2)清潔援助の目的および方法の選択 3)清潔援助の留意点 2.清潔援助の実際とアセスメント 1)全身清拭 2)洗髪 3)手浴・足浴 4)整容 3.衣生活援助の基礎知識 1)衣服を用いることの意義 2)熱発生と熱放散 3)衣服気候 4)病衣の選び方 4.病衣・寝衣の交換の実際とアセスメント								本校専任教員(1年) (総合病院で23年の実務経験有)	
姿勢・活動(15時間)											
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験			講師		
学習目標		授業内容									
対象の基本的欲求を理解し、姿勢・活動援助の基礎知識、技術、態度を習得する		1.活動に関する基礎知識 1)生活リズム 2)身体を動かすことの意義 3)活動を阻害する因子 4)廃用症候群 2.姿勢と各体位の特徴 1)体位変換 2)関節可動域訓練 3.移動・移乗・移送 1)アセスメントと方法の選択 2)移動の実際 3)移乗・移送の実際 (1)車椅子 (2)ストレッチャー 4.姿勢・体位の援助に関する安全 1)廃用症候群予防 2)褥創形成の予防 3)転倒・転落の予防 4)安全のボディメカニクス 5)キネステイック 5.睡眠・休息の基礎知識 1)睡眠・休息の意義 2)睡眠障害の要因 3)睡眠障害のアセスメント 4)睡眠・休息の援助 <td colspan="2"> 【13/15時間】 本校専任教員(3年) (病院で5年の実務経験有) 【2/15時間】 理学療法士 (病院で16年の実務経験有) </td>								【13/15時間】 本校専任教員(3年) (病院で5年の実務経験有) 【2/15時間】 理学療法士 (病院で16年の実務経験有)	
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ. 医学書院 参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術. 医学書院											

専門分野 I

分野	専門分野 I		教育内容		基礎看護学		単位	11	時間	300	
科目	基礎看護学方法論Ⅶ		単位	1	時間	30	進度		1年次後期		
単元名	診療補助技術(検査・治療 電法・包帯・穿刺 感染)										
目的	診療に伴う基本的援助技術と診療を受ける対象を理解し看護の方法を学ぶ。対象に安全、安楽な技術を提供するために、対象の理解と看護実践に必要な基本技術を学ぶ										
検査・治療(10時間)											
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験			講師		
学習目標	授業内容										
検査・治療に伴う対象の心理を理解し、診察補助に必要な知識・技術・態度を理解する	1.検査・治療における看護師の役割 1)検査の意義と目的 2)検査の方法と種類、検体の採取とその取り扱い (1)血液検査 (3)便検査 (2)尿検査 (4)喀痰検査 2.診察の介助 3.生体検査 (1)心電図検査 (5)内視鏡検査 (2)X線撮影 (6)超音波検査 (3)コンピュータ断層撮影 (7)肺機能検査 (4)磁気共鳴画像 (8)核医学検査 4.医療機器の原理と実際 1)ME機器とは 2)ME機器を使用するための基礎知識と取り扱いの留意事項 5.酸素吸入療法の基礎知識 6.吸引の基礎知識 7.排痰ケアの基礎知識 8.吸入援助の基礎知識									本校専任教員(17年) (病院6年、診療所で4年の実務経験有)	
電法・包帯・穿刺(8時間)											
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験			講師		
学習目標	授業内容										
電法・創傷管理・穿刺時の援助技術を習得する	1.電法の意義と援助の実際 冷電法・温電法 2.創傷管理の基礎知識 1)包帯法の目的と種類、方法の実際 2)創傷部位の洗浄 3.穿刺の意義と目的 1)腰椎穿刺 3)腹腔穿刺 2)胸腔穿刺 4)骨髄穿刺									本校専任教員(17年) (病院で6年、診療所で4年の実務経験有)	
感染(12時間)											
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験			講師		
学習目標	授業内容										
感染予防に必要な知識・技術を理解する	1.感染防止の基礎知識 2.標準予防策 1)手洗い・手指消毒 3)周囲環境対策 2)防護用具 3.感染経路別予防策 1)飛沫感染防止策 3)接触感染防止策 2)空気感染防止策 4)隔離法 4.洗浄・消毒・滅菌 1)洗浄 2)消毒と滅菌 5.無菌操作 無菌操作の実際 (滅菌包装の開き方、鉗子・鑷子の取り扱い、滅菌手袋の着用) 6.感染性廃棄物の取り扱い 7.カテーテル関連血流感染対策 8.針刺し事故防止									本校専任教員(3年) (病院で5年の実務経験有)	
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ. 医学書院 参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術. 医学書院 成人看護学 成人看護技術. 南江堂											

専門分野 I

分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学			単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論Ⅷ	単位	1	時間	15	進度	1年次後期		
単元名	診療補助技術(与薬)								
目的	診療に伴う基本的援助技術と診療を受ける対象を理解し看護の方法を学ぶ. 対象に安全、安楽な技術を提供するために、対象の理解と看護実践に必要な基本技術を学ぶ								
方法	講義・演習		評価方法		筆記試験		講師		
学習目標		授業内容							
与薬における看護の役割と援助の方法を学ぶ		1.与薬の基礎知識					本校専任教員(1年) (総合病院で23年の実務経験有)		
		2.経口与薬							
		3.吸入							
		4.点眼							
		5.経皮的与薬							
		6.直腸内与薬							
		7.注射							
		1)注射の基礎知識							
		2)注射の準備							
		3)注射の実施法と実際							
		(1)皮下注射							
		(2)皮内注射							
		(3)筋肉内注射							
		(4)静脈内注射							
		(5)輸液ポンプ							
		(6)中心静脈カテーテル留置							
		8.輸血管理							
		1)基礎知識							
		2)援助の実際							
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ. 医学書院									
参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術. 医学書院									

専門分野 I

分野	専門分野 I		教育内容		基礎看護学		単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論IX		単位	1	時間	15	進度	1年次後期		
単元名	臨床看護の実践(フィジカルアセスメント)									
目的	健康問題によって生じる各健康レベルの特徴を理解しそれによる生活の変化や各期に現れやすい対象や家族の心理状況を理解し、アセスメントと援助の基本的方法を学ぶ									
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験				講師
学習目標			授業内容							
身体的情報の判断に活用するフィジカルアセスメント技術を理解する			1. フィジカルアセスメントとは フィジカルアセスメントの目的							看護師 (病院で21年、介護施設で8年の実務経験有)
			2. 身体機能のアセスメント 1) 視診 2) 触診 3) 打診 4) 聴診							
			3. 呼吸系と循環系のフィジカルアセスメントの実際 1) 呼吸音の聴取 2) 心音の聴取 3) 心電図の取り方・見方							
			4. 消化系のフィジカルアセスメントの実際 1) 腹部の聴診 2) 腹部の触診							
			5. 感覚系のフィジカルアセスメントの実際 1) 眼位の異常 2) 眼球運動 3) 聴力 4) 皮膚知覚							
			6. 運動系のフィジカルアセスメントの実際 徒手筋力測定							
			7. 中枢神経系のフィジカルアセスメントの実際							
テキスト:フィジカルアセスメントガイドブック第2版, 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I. 医学書院 参考書: 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院										

専門分野 I

分野	専門分野 I		教育内容		基礎看護学		単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論 X		単位	1	時間	30	進度	1年次後期		
単元名	臨床看護の実践(臨床看護学総論)									
目的	健康問題によって生じる各健康レベルの特徴を理解しそれによる生活の変化や各期に現れやすい対象や家族の心理状況を理解し、アセスメントと援助の基本的方法を学ぶ									
方法	講義・演習			評価方法	筆記試験・レポート					講師
学習目標			授業内容							
フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データを理解し、事例を用いて援助方法を学ぶ			1. 臨床看護の理解 1)臨床看護の対象 2)経過別に応じた看護 (1)急性期 (2)回復期 (3)慢性期 (4)終末期 2.主要な身体症状のメカニズムと看護 1)浮腫 2)吐気・嘔吐 3)痛み 4)咳嗽・喀痰 5)麻痺 6)発熱 3.治療処置に伴う看護 1)安静療法 2)薬物・輸液療法 3)食事療法 4)手術療法 4.事例を用いて看護過程の展開を実践する 1)健康障害を持つ対象に必要な援助を計画する 2)計画した援助内容を演習で実践する 3)演習で実践した援助内容を評価する							本校専任教員(2年) (総合病院で6年の実務経験有)
テキスト:系統看護講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論, 医学書院 参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院 症状別看護過程, 医学書院 成人看護学 成人看護技術, 南江堂										

専門分野 I

【 基礎看護学実習 I 】 1単位 45時間 2年次前期

1. 実習の目的

対象を取り巻く環境を知り、看護師と共に日常生活の援助を経験する

2. 実習目標

- 1) 入院している対象の環境をとらえ、環境調整の必要性とその大切さを考える
- 2) 病棟の援助計画に沿って、看護師と共に日常生活の援助を経験する
- 3) 対象とコミュニケーションをはかり、情報収集の視点を理解する
- 4) 日常生活の援助、対象との関わりから看護について考える
- 5) 看護専門職としてふさわしい態度を身につける

3. 実習方法

	内 容	記録用紙
事前学習	実習の課題を明確にして臨む 実習計画表作成	No.1 No.2
	病院・病床の環境について病院見学実習の振り返り、再確認する	見学実習記録用紙
初日・2日目	①病院・病棟のオリエンテーションを受ける ②病院・病床の環境を観察し、記述する ③看護師と共に行動し、話し方・接し方を見学する ④援助の見学、参加を通して看護師の役割を捉える ⑤対象とコミュニケーションをとり、情報の整理をする ⑥カンファレンスを行い、生活環境について自分の意見を述べる	No.3 No.2・No.8
3日目～ 5日目	①環境調整の必要性を考えながら、環境整備を計画し看護師と共に実施する ②看護の視点を持って、不足している情報を追加していく ③援助の見学、参加を通して看護師の役割を考える ④自分の理想とする看護師像を考える ⑤学生間でカンファレンスを行い、援助や対象との関わりについて意見交換をする	No.8 No.3 No.2
6日目 (最終日)	①環境調整の必要性を考えながら、環境整備を計画し看護師と相談しながら実施する ②看護の視点を持って、不足している情報を追加していく ③自分の理想とする看護師像を明確にする ④最終カンファレンスで実習のまとめをする 最終評価	No.8 No.3 No.2

※記録用紙 No.3 については基礎 I 実習専用の用紙を使用（他は共通用紙）

4. 実習中の注意事項

- 1) 聴く態度・言葉遣いなど相手を尊重した態度をとる
- 2) わからないことはそのままにせず調べたり・質問したりする
- 3) 実習グループとして協力する
- 4) 対象のプライバシーを保持する
- 5) 体調管理をしっかりして実習に臨む

5. 記録の提出について

- 1) 記録類は学生氏名を明記し、クリアファイルに入れるなど管理に責任をもつ
- 2) 登校日には実習担当教員へ提出し、随時添削・指導をもらう
- 3) 実習終了後は、指定された実習記録一式、クリアファイルに入れて提出する

6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価
実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準
実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野 I

【 基礎看護学実習Ⅱ 】 2単位 90時間 2年次後期

1. 実習の目的

日常生活の援助を実践し、対象に応じた看護方法を理解する

2. 実習目標

- 1) 対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に捉える
- 2) 受け持ち対象に応じた日常生活の援助を計画し実践する
- 3) 様々な状態の対象に合わせて、安全・安楽に留意して援助する
- 4) 対象の反応をもとに、援助したことを振り返る
- 5) 対象及び家族、医療従事者との関わりを通して、自分の言動の傾向を知る
- 6) 看護専門職として、ふさわしい態度を身につける

3. 実習方法

		内 容	記録用紙
事前学習		実習の課題を明確にして臨む 行動計画表（初日の計画）作成・週間計画を立てる 事前学習の完成（技術の練習、強化）	No.1 No.2 No.8・10
1 週目	初日	①オリエンテーション ②受け持ち患者への紹介・情報収集	No.2・3・4
	2 日目以降	①対象と話をしたり、看護師と共に援助をしながら情報収集（未充足な部分を見つける） ②援助の必要性を見出す(アセスメント) ③対象の情報やアセスメントはその都度追加・修正する ※同室の患者・家族とのコミュニケーションも図る ※受け持ち以外の患者様の日常生活の援助を看護師とともに経験し、事前学習と比較し対象に合った援助を振り返る。	No.2 No.3・4・5 No.7 No.8
2 週目	登校日	学校に登校し、振り返り・計画の立案	No.4・5・6
	実習日	①1 週目と同様に情報を得ながら、指導者と共に対象に応じた援助を行い、振り返りをする ②受け持ち対象の情報・アセスメントを追加し、全体像を捉える ③受け持ち対象の健康問題を抽出し、それに合った援助を計画する（日々の目標・計画に反映する） ④看護師と共に援助を実施し、その内容を評価・修正する ⑤患者・家族・他職種とのコミュニケーションを図り、その場面を振り返る	No.2 No.3・4・5・6 No.7 No.8 評価表
3 週目	登校日	学校に登校し、振り返り、計画の評価・追加・修正	No.3～8
	実習日	①問題解決のための計画の追加・修正 ②対象の健康問題に沿って計画を追加・修正する ③看護師と共に援助を実施し、その内容を評価・修正する ④他者との関わり場面から、自身の言動の傾向を分析する	No.2 No.3・4・5・6 No.7 No.8
	実習修了後	実習の振り返り	評価表 No.9
記録用紙	No.1 実習課題用紙 No.2 行動計画書（※毎日記入） No.3 情報の分類・整理と分析・解釈 No.4 関連図 No.5 看護上の問題 No.6 受け持ち患者看護計画 No.7 プロセスレコード（週に1枚） No.8 技術の事前学習・援助振り返り No.9 実習振り返り用紙 No.10 事前学習（疾患・治療・看護）		

4. 実習中の注意事項

- 1) 対象のプライバシーを保護する
- 2) 自己の健康管理には十分留意すること
- 3) 実習グループとして協力すること

5. 記録物の提出について

- 1) 記録類は学生氏名を明記し、クリアファイルに入れるなど管理に責任をもつ
- 2) 登校日には実習担当教員へ提出し、随時添削・指導をもらう
- 3) 実習終了後は、指定された実習記録一式を揃え、クリアファイルに入れて提出する

6. 単位修得の認定

1) 成績の評価

実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。

2) 成績評価の基準

実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。